

■野田泉光院

のだせんこういん
.....1756=

修験僧(山伏)。60歳前後に、全国の諸山を巡る修行を兼ねて各地を訪れ、「日本九峰修業日記」を遺した。

日向国で、代々佐土原藩に仕える当山派修験安宮寺の住職の子に生まれる。本名は成亮(しげすけ)。

大岡忠光没・1760= 4歳 :

蘭金銀錦絵始1765= 9歳 :

田沼意次老中1772=16歳 :

解体新書・・1774=18歳 :

安宮寺の住職を継ぎ、

蘭学階梯・・1783=27歳 :

田沼意次失脚1786=30歳 :

ワクサン来日・1792=36歳 :

松平定信引退1793=37歳 :

本居宣長没・1801=45歳 :

様々な祈願のため、大和の大峰山に37回も登り、うち18回は南の本宮まで行くほど、旅好きであったが、

.....1810=54歳 :

高田屋拿捕・1812=56歳 :*住職を譲って隠居。全国の諸山(九峰)を巡る修行に出、菊の御紋の入った提灯を持っているのを強みに、

まず薩摩藩内の開聞岳や坊津まで足を延ばすところから始めて、肥後に出、

浮世床・・・1813=57歳 :_筑後柳川を経て、門付托鉢をする人たちのための宿を引受ける“年宿”という仕組みに従い、長崎に滞在、

黒住教・・・1814=58歳 :_日田の英彦山、小倉など経由して、周防の小郡を“年宿”に、長州一帯を廻る。

.....1815=59歳 :_岩国、安芸の宮島、竹原から、石見、因幡、但馬を廻って、丹波の福知山を“年宿”とし、

伊能測量終・1816=60歳 :_敦賀、能登から飛騨を経て、甲府近在の農村を“年宿”とする。

杉田玄白没・1817=61歳 :_江戸から、秩父などを廻って、下総成田の近くを“年宿”とした後、越後から鳥海山まで足を延ばした後は、

かなり速さで、那須、富士のある遠州を廻って、

水野忠成老中1818=62歳 :*志摩の漁村を最後の“年宿”に、大坂、吉野熊野から、山陽道から四国八幡浜に出、そこから船で豊後に渡り、佐土原に帰る。安宮寺に戻ってすぐに、藩主に報告して、旅は終るが、その6年2ヶ月にわたる旅の記録を「日本九峰修業日記」に書き残し、当時の風俗を生き生きと活写する貴重な史料となった。

群書類従完結1819=63歳 :

_長旅の一度も病気になることがなかったほど健康で、その後も長寿を保って、

シボク事件・1828=72歳 :

滑稽+人情本 1835=79歳 :傘寿に、_没した。